

# 救急車



# 適正な利用を

# 救急医療機関



このところ、救急車の要請の中で、緊急性が無く、自分で病院に行けるにもかかわらず、安易な気持ちで要請する人が見受けられます。

また、市内の医療機関では、通常診療のない休日や夜間の時間帯に、緊急患者を対象に診療を行っていますが、緊急性が無いと思われる人の受診（コンビニ受診）も多くなっています。

このようなことが増えると、本来に救急車を必要としている重症、重篤な人への救命措置が遅れたり、緊急性の高い患者の治療に支障をきたしたりすることにつながります。大切な命を救うため、救急車や救急医療機関の適正な利用について、皆さんで考えてみましょう。

## その救急車本当に必要？



市民の皆さんの大切な命を守るため、岩見沢地区消防事務組合に5台（うち、市内に4台）の救急車を配備し、24時間体制で救急要請に対応しています。

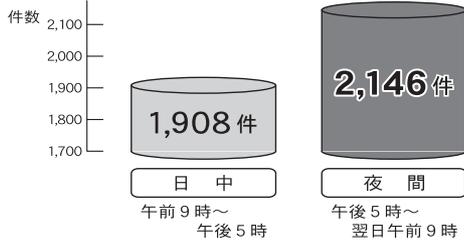
近年は、救急要請が増加しており、救急車が同時に出動する機会も多くなっています。

しかし、救急車を要請する人の中には、「交通手段がない」「どこの病院に行けば良いかわからない」「便利だから」などの理由で、タクシー代りに利用しようとしていたり、軽い症状やすり傷などで要請があったりすることもあります。

このような要請が増えると、本来に救急車を必要としている重症・重篤な人の治療に支障をきたします。

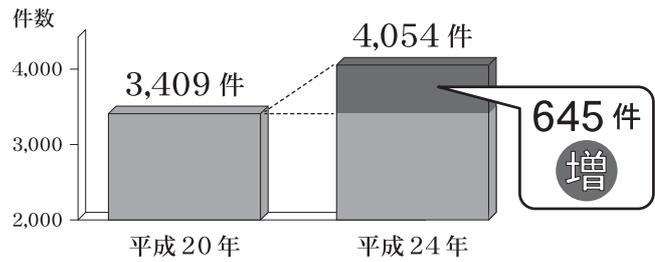
より多くの命を救うため、本来に救急車が必要か、自家用車やタクシーなど、ほかの交通機関を利用できないかを考え、救急車の適正な利

## 平成 24 年 救急出動時間帯別件数



岩見沢地区消防事務組合の  
救急出動状況

## 救急出動件数



# こんな症状がみられたら 迷わず 119 番に連絡を

重大な病気やけがの可能性がります！迷わず救急車を要請してください

### 頭

- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 支えなしでは立てないぐらいいふらつく

### 腹

- 突然の激しい腹痛
- 持続する激しい腹痛
- 吐血や下血がある

### 手足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

### 顔

- 顔半分が動きにくい、またはしびれる
- にっこり笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ろれつがまわらない、うまく話せない
- 視野がかける、物が突然二重に見える
- 顔色が明らかに悪い

### 胸・背中

- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 胸の中央が締め付けられるよう、または圧迫されるような痛みが 2～3 分続く
- 痛む場所が移動する



#### 【こんなときも】

- ◆ 意識が無い、ぐったりしている
- ◆ けいれんが止まらない
- ◆ 乳児の様子がおかしい

### 頭

- 頭を痛がってけいれんしている
- 出血が止まらない、意識がない

### 胸

- 激しい咳やゼーゼーして、呼吸苦があり、顔色が悪い

### 手足

- 手足が硬直している



### 顔

- くちびるの色が紫色で呼吸が弱い

### 腹

- 激しい下痢や嘔吐で水分が取れず、意識がはっきりとしない
- 激しい腹痛で嘔吐が止まらない
- 血便が見られる

このほか、いつもと違う、様子がおかしい場合は、重大な病気やけがの可能性がりますので、迷わず救急車を要請してください。

## ダメ！ コンビニ受診



用をお願いします。  
ただし、上記のような症状が出たり、いつもと違う、様子がおかしいと感じたりした場合は、迷わず救急車を要請してください。

救急医療機関は、夜間、土・日曜日、祝日など通常診療を行っていない時間に、急な病気やけがをした人を対象に治療を行っています。  
しかし、平日は仕事や用事がある「」、昼間は病院が混んでいる「」などの理由で、救急医療機関を受診する、コンビニ受診が増えています。  
コンビニ受診が増えると、緊急性の高い患者の治療が遅れてしまうほか、医師や看護師などの負担が大きくなり、身近にある救急医療機関の体制を維持できなくなる恐れもあります。

**平日の日中に受診を** ●●●

救急医療機関は、通常診療とは違い、専門医がいなくても多く、診

## ◆ ◆ 夜間や休日にこんな症状が出たら ◆ ◆



頭やお腹、胸などが  
急激に痛くなった



急に高熱が出た



家族では対処できな  
い外傷を負った

このほかにも、  
緊急性があると  
判断した場合

## 救急医療機関へ

### ▶ 土・日曜日、祝日は ◀

当番医は、毎月の広報紙に折り込んでいる、  
すこやかカレンダーで確認してください。

また、テレホンサービス(☎23局5153)  
や市ホームページ、岩見沢市メールサービスでお  
知らせしています。

### ▶ 夜間は ◀

夜間急病センター(10西3)

☎25局3000

診療時間 午後6時から午前0時

診療科目 内科、小児科(このほかの科目  
はご相談ください)

## ● ● ● ● ● 小さな子どもがいる家庭は ● ● ● ● ●

子どもが熱を出した、下痢をしている、咳が止まらない、誤って洗剤を飲んでしまったなど、小児救急に関する様々な相談に看護師が応じ、すぐに救急医療機関にかかる必要があるか、家庭でどのような応急手当をすればよいかなどの助言を行う、小児救急電話相談を実施しています。(より専門的な知識を必要とする場合は、小児科医が相談に応じます)

なお、電話相談は家庭での一般的対処に関する助言を行うものであり、診断や治療はできませんので、あらかじめご了承ください。

## 小児救急電話相談

受付時間 午後7時～11時 ☎(011)232局1599

局番なしの「#8000」でも電話受け付け可能です。携帯電話からも利用できます。



断が確定しないことや薬を1日分しか出せないなど、限られた診療しかできません。そのため、平日の日中に再度医療機関を受診してもらうことが多くあります。

また、休日や夜間は割増料金となり、医療費が高くなります。

自分の症状や状態が、緊急性があるのか判断するのは難しいと思いますが、平日の日中に症状があった場合は、早めに医療機関の通常診療時間内に受診することをお勧めします。

ただし、夜間や休日に上記のような症状が出たり、緊急性があると判断したりした場合は、迷うことなく救急医療機関を受診してください。

救急車と救急医療機関は、いざというときに市民の皆さんの命を守るものです。

本来に必要としている人への救急措置や治療が遅れると、その人の命に係わることがあります。

もちろん、自分や家族などの症状で、緊急性があると判断した時には迷わず利用することが大切です。

大切な命を守るために、適正な利用をお願いします。

問合せ先

3) 岩見沢保健センター(10西  
☎25局5540